



介護リスクマネジメントNEWS

施設内のトイレ前で入居者が転倒していた事例

左大腿骨大転子部骨折で10日間入院

発生時・発見時の状況

サービス種別	入所施設	トラクレ種別	転倒	発生場所	2階共同トイレ
介護状況	単独行動	本人の状態	左大腿骨の痛み		

- 職員Xが2階の健康管理室に居たところ、ドスンという音が聞こえ、その後「いたたた、やっちゃった。」とAさんの声が聞こえた。
- 2階のトイレ前に行くと、Aさんがトイレから出た所で左大腿を下にして横たわっていた。トイレの使用後と推測され、頭が中央の洗面台側に向いており、左側臥位で苦悶の表情を浮かべて倒れていた。Aさんが使用していた歩行器は近くにあり、ストッパーがかかっていた。
- Aさんは、左大腿を押さえて「痛い、痛い。」と訴えていた。職員2人が支援してAさんを起こし、車椅子に乗車してもらい、居室に戻ってもらった。
- 居室でボディチェックを行ったところ、左腰部に5センチ程の赤みを確認。左大腿を動かすとAさんから「痛い。」との訴えがあった。
- 施設の提携医に連絡すると、病院受診の指示があり、緊急搬送で外科病院を受診した。左大腿骨大転子部骨折と診断され入院となる。
- 入院日の翌日に手術を受け、事故発生の10日後に退院して施設に戻られた。

考えられる事故の原因

- トイレに入る際の歩行器を置く位置が決まっていない**
歩行器を使用して歩行しているが、トイレに入る時に歩行器を置く位置が定まっていないため、確実に歩行器につかまることが出来なかった可能性がある。
- 手を洗う際の歩行器を置く位置が適切でなかった**
手を洗う際に歩行器の置く位置が悪く、つまずいてしまった可能性がある。
- 早く移動しようと焦ってしまった**
アクティビティの時間中で仲間から誘われていたため、律儀な性格のAさんは、誘われたら急いでいかなければならないと焦ってしまった可能性がある。
- そもそも歩行が安定していない**
歩行が安定していない為、おぼつかない歩行になりやすい。

皆さんで考えてみましょう！

Q. **トラブル予防の観点から、何ができたでしょうか？**



施設内のトイレ前で入居者が転倒していた事例

左大腿骨大転子部骨折で10日間入院

今回のトラブル・クレーム予防の観点から、なにができるか考えてみましょう！

トラブル・クレーム予防に向けたポイント

今回のトラクレ事例から、転倒事故予防のためのポイントを3つあげてみました。これ以外にも様々なポイントが考えられると思います。みなさんで意見を出し合ってみてください。

ポイント①：歩行器の使用時の安全確認

歩行器を使用してトイレや洗面台を利用する際に、利用者にとって安全な歩行器の置き位置を検討します。利用者が安全に歩行器につかまることができるよう、利用者によって適切な位置を検討しましょう。利用者には検討した安全な位置を伝え、あわせてストッパーが正しくかかっているかを確認するよう繰り返し依頼しましょう。

ポイント②：トイレおよび洗面台周りの環境整備

トイレや洗面台周辺の環境を安全に保つためには、手すりや滑りにくい床材の設置など、利用者が安心して利用できるような環境整備が必要です。特に手を洗う場所では床が濡れている可能性があるため、職員が気を配り、床が濡れていたらすぐに拭き取るようにしましょう。

ポイント③：利用者の個別ケアプランの見直し

転倒の原因となる利用者の個別の要因を特定し、利用者のケアプランを見直しましょう。医師や理学療法士など関連の専門家と連携し、適切なリハビリやトレーニングを導入することで、利用者の歩行機能向上を図ります。また、介助や見守りが必要であれば、それを関係スタッフ全体で共有し、安全の確保を図りましょう。

介護施設内での転倒防止のために、福祉用具使用時の安全確認、トイレや洗面台周りの環境整備、個別ケアプランの見直しをすることで、転倒事故のリスクを最小限に抑え、安全な環境を提供していきましょう！



<情報提供元>

東京海上日動ベターライフサービス株式会社
ソリューション事業部

◆許可なく、転送・転載・複写はご遠慮願います。